

元気はつらつ新聞

発行：元気はつらつプロジェクト委員会 平成 27 年 10 月 29 日発行

布施公民館内 〒696-0401 邑南町布施 496

TEL・FAX 0855-84-0651 IP 050-5207-5600

No.3

目次

- ・夏休み学生地域づくり
インターンシップ
- ・島根大学作野教授ゼミ合宿
- ・地区別戦略会議
- ・赤馬滝周辺施設
リニューアル
- ・高野山展望台完成
- ・白鶴山+白築純
コンサート報告

夏休み学生地域づくりインターンシップ

全国の大学生を対象に夏休みの一ヶ月間、島根県内の田舎に住み、そのでの生活や活動を通して、過疎化の進む地域の現状や地域づくりについて学ぶというとても面白い内容の「夏休み学生地域づくりインターンシップ」を島根県中山間地域研究センターが昨年より主催しています。今回は隠岐の島、大田市、浜田市（2地区）、益田市、邑南町（2地区）から7地区が応募し、ここ銭宝地区にも神奈川県と高知県から2名の大学生が、8月10日から9月9日まで滞在し、地域の活動に参加しました。

それぞれの思いがあり、この島根の山間部に訪れた二人。高野山展望台の塗装の手伝いや、地域の若い世代との交流や聞き取り調査、また盆踊りなど自治会の行事への参加を通して、来た当初は、新しい地に戸惑っている様子だった学生も、時間を重ねることで活き活きとした表情をみせ、いつの間にか地元の訛りも移り、すっかり地域にとけ込んでいました。



滞在の締めくくりである成果発表会では、地域を鋭く見抜き、新しい視点で地域に提案をしました。

高知からの岩貞さんは、自身の祖母の田舎である高知の限界集落と比較し、銭宝地区は、上下水道が整備され、草刈りなど田畑もちゃんと管理されていること、また都会と違って人と人とのつながりがあり、積極的に地域づくりの活動をしている人が多くいることなど、この地区の良さをあげてくれました。

両親ともに大都市で生まれ育ち、自身の田舎を持たない神奈川からの福井さんは、ここには「何もない」からこそ人の良さが際立っている、また、自分達で「地域を運営する」意識があり、人が少ないからこそ自分の役割を見つけやすい場所であることをあげ、まず自分が楽しむことを考え、少し先の未来の自分が楽しくやってみたくにはどうしたらいいかを考えてみたら、皆が共感できるのではないかと提案してくれました。「よそ者、若者、ばか者がい

れば地域は元気になる」という教育委員会の小笠原さんの言葉を用い、違う地区から越してきた人を「ようわからん」と突き放すのではなく、本音を話し、分かってもらう、みんながもっと楽しくなるのではないかと伝えてくれました。

一ヶ月間スケジュールがびっしり入っており、毎日忙しかったことと思います。本当にお疲れさまでした。地域に新しい風をはこんでくれて、ありがとうございます！



島根大学作野教授ゼミ合宿

ゼミ合宿

毎年恒例になった島根大学のゼミ合宿。今年も8月20日（木）から22日（土）に渡り、昨年行った世帯訪問調査の残りの世帯を周りました。今年はこちらと同じ時期に重なった、インターンシップの学生二人も島大の調査に加わりました。

最終日におこなった地域への報告会では、「地域の野菜や米、加工品など



を産直市などで、銭宝地区の〜という形で、地区まるごとを売り出してはどうか」という提案や、「地元出身者でも、戻る予定のない人を地区に呼び戻すのは難しい。戻ってこられる方々を大切に〜」という意見をいただきました。

また、飯南町から地域おこし協力隊の方と現場職員の方も参加され、銭宝地区に関心を持っていただいていることを感じました。作野先生に結んでいただいたご縁を大切に、他の地区との交流を通して、次に繋げていけたらと思います。



地区別戦略会議が

進行中

邑南町が合併して今年で10年になります。今回、町全体の総合戦略を立てるのに合わせ、地区ごとに向こう5年間の地域づくりの計画を立てることにしました。

邑南町地域コミュニティ再生事業を取り込んだ、この元気はつらつプロジェクトも来年度が最終年度となり、今回の町からの「地区別戦略」の事業提案は、今まで積み重ねてきたことを次のステップに移す絶好の機会でもあります。

現在、銭宝の3集落より40名の地区別戦略策定委員会を中心に、「人口減少対策」「産業復興」「保健福祉」の3つのグループに分かれ、11月の提出締切に向け、熱心に話し合いを進めています。



赤馬滝周辺施設をリニューアル

島根県のふるさとの滝として選ばれている赤馬滝。休憩所や橋などの老朽化で、訪れる人も減少しておりましたが、この度、みーもの森づくり事業を取り込み、周辺施設をリニューアルしました。

また、江戸時代に赤毛の牛の銑鉄運搬路として使われていた山峡の小路を、一部散策道として整備しました。赤馬滝は上下に滝が二つ並んでいるので、滝の正面からは下段の滝しか見ることができませんが、散策道からは



散策道から望む上段の滝

上段の滝を眼下に見下ろすことができます。

赤馬滝には、昔「たたら」が盛んだった頃の伝説があります。銑鉄の運搬路が下畑（赤馬滝入口周辺の集落）から滝の上を渡り、伊矢谷を経て今津の銅山へと続く難路だったそうです。その銑鉄を運ぶのに性質がおとなしく、よく働く赤馬（赤毛の牛）が使われておりました。その赤馬に仔牛が産まれ、毎日親牛のあとをついて小路を往復し



ていたところ、ある日、仔牛が足を滑らせ滝壺へ転落し、悲しんだ親牛が仔牛のあとを追うように滝壺に身を投げました。そこから赤馬滝と呼ばれるようになった、と言われています。悲しい伝説が残る赤馬滝。遠い昔に思いを馳せながら、散策道を歩いてみませんか。



通学合宿で赤馬滝を訪れた高原小の子ども達



高野山展望台が完成

高野山整備の一環で行った展望台設置。子供の頃に木のぼりをして、高い場所から風景を眺めた記憶をもとに、高野山山頂にある三本の松を柱に展望台を作りました。

山頂からの見晴しを良くするため、昨年頂上付近で伐採した木を、主に階段部分に、細い枝は手すりに使用しました。木登りをする感覚で登ってほしいという作りの思いから、少し変わった形の展望台ができました。眼下の風景を望むと、まるで松の木に登っているような感覚になります。

晩秋を迎え、これから紅葉のきれいな季節になります。銭宝の3集落につながる3つの登山道。山の南面、東面、北面と、植生も雰囲気もそれぞれ趣の違う登山道を通って、山頂の展望台に遊びに行きませんか。



昨年6月、八色石の専光寺でコンサートをしていただいたジャズシンガー白築純さんが、6月6日（日曜日）布施公民館で、「2015 初夏の山陰ツアー 3days」を行いました。



おられる、超有名な方々です。そんなすごい方が、ここ布施公民館で夢のようなライブを行ってくださいました。Jazzと聞くと、馴染みがないと思われるのではないかと若干心配しましたが、音楽は国境を超えるではありませんが、素敵な音色に若者から年配の方まで、じっくり楽しむことができました。最後の「チューチュートレイン」



（レポート 土崎しのぶ）

白鶴山 + 白築純コンサート

昨年、純さんの素敵な歌声だけでも大満足でしたが、なんと今年は仲間を連れてさらにバージョンアップしたコンサートとなりました。来ていただいたのは、日本屈指のトップドラマーとして、矢沢栄吉・今井美樹等のアーティストからオフアアが絶えないミュージシャン鶴谷智生さん、西野カナ・斉藤和義・久保田利伸等の人気アーティストと共演するキーボードアーティスト白井アキトさん、国立音大ジャズオーケストラで活躍し、バークリー音楽大学を卒業後、ジャズ・フュージョン・ポップスなど、様々なジャンルで活動するベ이스リスト山本連さん。この3人は、それぞれの頭文字をとって「白鶴山」として、東京をベースに活躍して